

稿 寄

「いのちを支えあう地域へ」

小田原市長 加藤 憲一

少子高齢化・人口減少が急速に進むこれから時代に、この国がどうやって持続可能な社会的仕組みを持ちうるか。その政策ビジョンの提示は、今回の総選挙においても最も重要なテーマでありましょう。

私は市政運営の三本柱の筆頭に「いのちを大切に」する小田原へを掲げ、厳しさの増す財政状

況の中、医療教育・福祉に手厚く取り組んで来ました。その中で、この6月に「ケアタウン構想検討委員会」が立ち上がりました。

高齢者、特に介護を必要とする方々、年齢を問わず障害を持つ方々、小さな子どもたち、子育て中の親御さんたち。社会的に何らかのケアを必要とする人たちを支

えるために、行政、民間事業者、そして市民の皆さんが役割分担し、それぞれに心を配り、力を合わせる。そんな地域の仕組みが必要です。いのちを支え合う地域。そんなイメージを、この「ケアタウン」という名称に込

めました。その第一回の委員会に私も参加しましたが、「小田原ならではのモデルを創りましょう」との意気込みで、委員の皆さんが熱心に議論を始めてくれています。



かとうけんいち

1964年小田原生まれ。小田原高校、京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、オービックビル事務局長、有限会社あしがら総研代表などを経て、現在小田原市長を務める。妻と子ども2人の4人家族。

この「ケアタウン」構想のお手本になるべき地域は各地にあります。その草分けとも言えるのが、岩手県旧沢内村です。早くから老人医療費

無料化や乳児死亡率ゼロへの挑戦を行い、今も「生命尊重の理念」を町是に掲げ、お年寄りや障害のある方々を地域でしっかりと支えています。

9月12日(土)、旧沢内村の様子を描いた記録映画「いのちの作法」の上映会があります(本紙記事参照)。今後の地域の姿を考える良い機会として、ぜひ多くの方にご覧頂ければ幸いです。

私が変わる・小田原が変わる

おだわらを拓く力

(加藤けんいち後援会)

小田原市栄町2-13-1-2F

TEL.0465-21-5260

http://www.katoken.info

小田原再生フォーラム

「いのちを大切に」する小田原へ

岩手県旧沢内村の「生命行政」に学ぶ

◆9月12日(土) 小田原市民会館小ホール

おだわらを拓く力 講演と、長編記録映画(加藤憲一 小田原市長 後援会)では、市民とともに小田原再生への道を模索しようと、各方面からゲストを招いて定期的にフォーラムを開催している。

今回は「いのちを大切に」する小田原へをテーマに、加藤市長の

西和賀町の人々の姿、改めて本当に価値のあるものを教えてくれる。



生命の尊重とは何か？福祉社会とは何か？
地方行政の姿から、日本のあるべき姿が見えてくる。

入場料は大人1000円、小中学生500円。*チケット問合せ ☎0465・21・5260 おだわらを拓く力